

岡崎の教育と私の個人的経験



岡崎市医師会長
小出 義信 氏

教育随想

岡崎市医師会長になると宛職で学校保健会長を務めるため、教育随想への寄稿を依頼されました。岡崎に戻り、筑波大学で医学生や研修医の教育指導に従事しましたが、初等中等教育については何も分かりませんので、岡崎で育ち、教育を受けた個人的経験を基に語るほかないようです。

私の学校歴は広幡小学校、愛宕小学校、葵中学校、岡崎高校、大学へと続き、東大闘争の期間も含めると二十年、人生の三分の一にもなり、教育という言葉に含まれる重さに驚きます。小学校の思い出は僅かですが、中学時代の思い出は一気にふくらみます。当時は高度成長期前、貧しくても頑張り続けられれば未来があると思うことができた。「三丁目の夕日」の時代です。父親は鍛冶屋をしており、一年の担任のA先生が時折学校備品の修理を依頼に訪れては、星座について教えてくれたり、努力するよう力づけられたりしました。



星を指す先生の指先が思い出されます。先生は数年後に交通事故死されましたが、次男の名前に先生のお名前の一文字を使わせて戴きました。三年の担任だったB先生はある夜家を訪れ、トヨタの養成工か父親の跡を継がせようと考えていた両親に高校受験を勧め、説得してくれました。私の人生が転回したあの夜の光景は今でも鮮明です。尊敬するこの二人の先生によって、今の私が形作られたと信じています。

最近の日本は、社会の骨格となる多くの分野が崩壊の瀬戸際にあり、私たちの理解を超えた事件が頻発しています。今の社会では、多くの事が数値で価値を判断される数値偏重の状態にあります。私たちは、家庭、

地域社会、学校生活を通じて善悪の判断、他人との協調や思いやり、自己抑制、努力することの必要性を学び、智・情・意のバランスのとれた社会性を獲得します。教育は知育・徳育・体育からなると言われますが、最も重要なのは、人としてのあるべき姿を教示すること、数値では表せない人間教育にあるのではないのでしょうか。人と人の交流が希薄で素朴さを欠く今の時代にあって、児童生徒のみならず、その家族と心を通わせ、信頼関係を構築することは困難だと思いますが、粘り強く頑張られますよう心からエールを送ります。日本の再生は、先生たちによる教育に委ねられています。



平成20年9月1日

9月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想 1
岡崎市医師会長
小出 義信氏
- この人に聞く 2
自然観察の里を作る会代表
酒井 豊氏
- 羅針盤 4
へき地・小規模教育指導員
小野 隆義
- ふれあい 5
竜美丘小
樋口志づ代
- 特集 6
心身の健康づくり
～学校保健委員会の取組～
- お知らせ 8
- フォト・ヒストリー 9
健康増進運動（昭和54年）
- この本を 10

ふるさとシリーズ この人に聞く



里山の再生を目指して

自然観察の里を作る会代表

酒井 豊 氏

「生き物が好きなんです。バードウォッチングを三十年以上しているのですが、それが里山の再生活動を始めるいちばんの大本になっています。」

植物が生い茂るご自宅の庭を背に、酒井さんに話を伺った。

「カエルやメダカやイモリ、トンボなどがすめる環境を作れば、鳥の保護にもなるのではないかとという発想からです。」

湿地や池を作ることが生き物の保護につながるのではないかとということ、最初は東阿知和町の私有地を借りて、十五年ほど前から活動を始めた。しかし、その地が産業廃棄物

処理施設の建設地になってしまいうことから、十年前 代替地として、中央総合公園内にある放置田を市から提供されたそうである。

「里山は、人が手を入れてこそ成り立つものです。日本人は、水田での稲作を昔からしてきて、そこに生き物も依存して生活してきました。しかし、稲作が衰退していくと、水辺にすむ生き物がいなくなります。すると、それに依存している鳥がいなくなり、サシバなどの猛きん類もいなくなります。」

そして、里山の再生を目指して、荒れ果てた放置田を多くの動植物が生育する状態にまで回復させた。また、観察の場として、間伐材や台風で倒れた木などを利用して木道やログハウスなども手作りした。

「毎週水曜日の十時に、会のメンバー十二人がパーベキュー広場に集まりますが、『今日は草刈りしようか』などと集まって相談はしません。それぞれのメンバーが自分で考えて行動

します。しかし、一人ではできない作業もあります。そのときは、手伝ってと頼むのではなく、一緒にやろうと仲間に声をかけます。」

危険も多くあり、切った大木が足下に倒れてきたり、チェーンソーでけがをしたりしたこともあったそうだが、現在、市と交渉を重ね、観察の場としてさらに整備していこうとしている。

「作ったからには、この地を訪れる人たちが、けがをしないようにする必要ががあります。現在の木道は、木が腐ると滑りやすいので、枕木で恒久的なものを作ってほしいとお願いをしています。また、整備をきちんととして、二名で管理できる体制を作りたいと思っています。」

将来的には、ハッチョウトンボが飛び交い、ゲンゴロウが泳ぐような里山にしたいという思いも持つ。

「今の子供たちは、泥んこになる経験が少ないですね。まったく経験がない子は、泥の中に入りたがらない。普段の生活の中で、自然とふれあい、遊んでもらえればうれしいです。」

「まずは来てください」と語る酒井さん。一つ一つの言葉の中に、里山再生にかける情熱が感じられた。

氏 名 さかい ゆたか

生年月日 昭和十二年十一月十八日

住 所 岩津町新城七―十二



教師の工夫一つで

へき地・小規模教育指導員

小野 隆義

昨年度、全校五名の極小規模校であるA小学校で教師一人、児童一人の授業を参観した。

四年生（本来は三年生で扱う教材）の国語、物語文「ゆうすげ村の小さな旅館」の読み取りの授業。これまでにB男が意見を言い、教師が補足する形で授業を進めてきた。しかし、多様な考えにふれさせることができず、思うように子供の思考力を伸ばせずにいた。そこで、教師が「太郎とさちこ」という架空のクラスメイトを演じることでB男とかわり、B男の考えを深めさせる授業を行った。

うさぎが化けた女の子の美月がもつと旅館を手伝いたいと思いがながら、逃げるように帰っていった心情に迫る話し合いの一場面。

「なぜ美月は、逃げるように帰っていったのでしょうか」という、教師の質問に、「お父さんの手伝いを

ふれあい

この一時間で、 どんな力を

竜美丘小 樋口恵つ代

この一時間で、A男にどんな力をつけることができたのだろう。授業を終えた後、思わず自分に問い直してしまうことが度々あった。

子供たちに分かる楽しさやできる喜びを多く味わわせたい。そのためには、この一時間で身に付けさせた力を明確にした授業を実践しなくてはならない。

二年生で担任したA男は、四月初、授業が始まって学習用具をなかなか出さないことがあった。

「教科書を出すよ。」
「この問題を解きなさい。」

声をかければかけるほど、A男の気持ちは授業から離れていくようだった。そんなA男の机上には、いつも教科書ではなく、図書室で借りた物語の本が出されていた。A男は、無類の読書好きなのである。A男が学びたくなるような授業を実践でき

ないものかと考えた。
「A男君、どんなお話を読んでいるの。先生に教えてくれる。」

夢中になって読書するA男に尋ねた。一生懸命に答えるのだが、彼の説明する粗筋が私にはまるで理解できなかった。

A男に、物語の読み方を教えたい。私は、国語科の物語文教材「ニヤーゴ」の学習を通して、A男に豊かな読解力を育てたいと考えた。

A男は、空想を広げながら物語の世界に浸っていた。内容を正しくとらえられるようになれば、A男の読みはさらに深まるであろう。A男には、物語の状況設定やストーリーを正しく読んだり、描写を味わいながら豊かに読んだりする力を身に付けさせたい。そして、読み解く力を活用して、物語のおもしろさを豊かに伝える力を育てたい。このようなA男の姿を目指し、毎時間の到達目標を設定して授業を実践した。また、A男の心を引きつけるような工夫を



授業に取り入れるよう努めた。

「ニヤーゴ」の六時間目の授業で、主人公の「ねこ」の気持ちは変化する場面を学習した。

A男には、動作化を通して、ねこの気持ちをつかませたいと考えた。動作化を好むA男は、張り切ってねこを演じた。ただ大きな声で元気にねこの言葉を叫んでいたのだが、授業が進むにつれ、A男の動作化は次第に変化していった。単なる空想ではなく、叙述に即して、身振りや表情、声色を工夫するようになったのだ。また、学習シートには、「子ねずみたちを食べたかったけど、なんか食べにくいな」と、ねこの気持ちをとらえた記述をすることもできた。

教材文の学習後、A男は、「ニヤーゴ」と同一作者の物語を意欲的に読み、ブックトークの時間に、本の粗筋や魅力を友達に紹介することができた。授業後、「先生、Bちゃんが、ぼくの本、読みたいだって。貸してあげた」と報告するA男の目は、落ち着いた輝きに満ちていた。

「ニヤーゴ」の学習を通して、A男は読書の幅を広げるようになってきた。また、読んだ本の魅力を、私にも友達にも進んで伝えるようになった。

今後、大好きな読書を手掛かりに、A男がさらに読解力を伸ばし、友達とのかかわりを深めていくことを願う。

しないといけないから」と答えるB男。その答えに太郎が、「おすおす」と書いてあるから、急いでエプロンをはずしたわけじゃないと思うけど」とゆさぶりをかける。すると、B男は、「もう少し旅館を手伝おうか。でも煙も忙しいし、お父さんを手伝おうか迷っていたのかも」と見方を変えた発言をする。すかさず、さちこが、「わたしも美月はすごく迷っていたと思うよ」と賛成の立場でかわる。すると、この発言を聞いたB男に満面の笑みがこぼれた。

授業後の感想には、「太郎君とさちちゃんといっしょに勉強できてうれしかったです。二人の意見を聞いて、美月がどうしようかなやんでいたからなんだとわかりました」と記されていた。

「へき地教育とは何か」と質問を受けることがある。私は、へき地校であろうと、小規模校であろうと授業の本質は同じであると答えている。子供が少ないから多様な考えが出ないのではなく、教師の工夫一つで引き出すことが可能になる。そのため、教師は、子供に目が行き届くというへき地・小規模校の特性を生かし、子供の考え方を広げ深める工夫をして授業に臨みたい。そして、子供に自力で解決する楽しさを味わわせていきたい。



心身の健康づくり

～学校保健委員会の取組～

▲講演者と生徒が一体となって命の大切さを歌うコンサート「輝け命」(美川中)

児童・生徒の心身の健康状態は、学校生活や家庭生活、地域環境などによって様々な影響を受けている。そのため、心身の健康づくりには、多くの人の協力が必要である。しかも、多岐にわたる活動が、連携を保ちながら、組織的に展開されることが大切である。そこで、学校保健委員会の果たす役割は大きく、各学校で健康づくりへの積極的な実践が行われている。

小学校では、栄養・食生活・生活習慣に関する話題が多く取り上げられている。専門家のアドバイスをもとに、親子で朝ごはんの献立を考え、試食をしたり、生活日課表をつくったりするなど、保護者とともに自分の生活を見直そうという工夫が見られる。

中学校では、命の教育に関する話題が多い。生命の誕生に関する講演や、病気を克服した方の講演などを通して、命の大切さを訴えるものが見られた。また、喫煙防止や薬物乱用防止に関する話題を取り上げ、その恐ろしさを伝える実践をしたり、いじめやストレスへの対処法や障害を克服した人の講演を聞いたりして、よりよく生きることの大切さを考えさせている学校もある。

中でも、美川中では、歌手を招き、歌を通して命や平和の尊さを訴えた。そして、歌手の語りと熱唱に引き込まれた生徒は、ステージ上で、ともに合唱した。命の大切さ、人の温もり、絆の大切さなどについて考えるよい機会となったようである。

今後も学校保健委員会を通して、よりよい生活ができるよう、多岐にわたる取組が期待されている。

命の教育



▲胎児の心音を聞いて学ぶ命の大切さ (額田中)



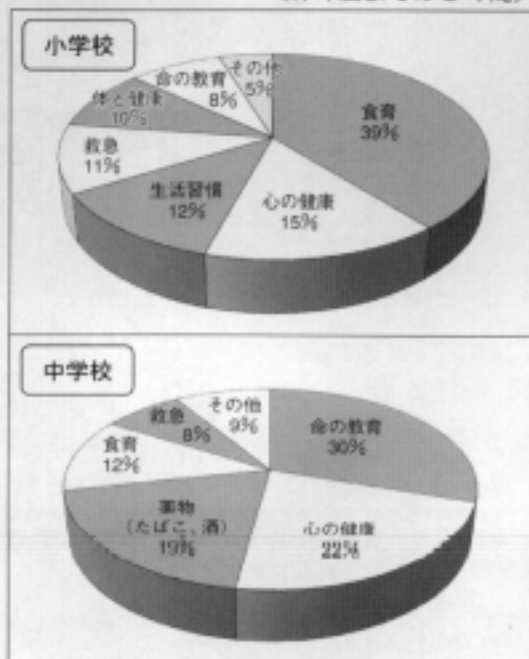
▲母親の気持ちを考える妊婦体験 (竜谷小)

助産師の方のお話を聞いて
 寮母さんの赤ちゃんの心臓の音を
 聞かせてもらいました。その音を聞
 いただけで、すごくがんばっている
 ことが伝わり、感動しました。そし
 て、赤ちゃんを産むということ、
 とてもつらいし、大変だということ
 がお話を聞いてわかりました。今、
 自分がこうしてられるのも、母親
 が、がんばって産んでくれた、大事
 に育ててくれたおかげなので、感謝
 したいと思います。

(額田中 三年生)

学校保健委員会テーマの分類

(昨年度までの3年間)



▲岡崎市教育ネットワーク総合リンクページ
現職教育「保健」(内部サーバー)

食育・生活習慣

▼親子で日課表づくり(恵田小)



早寝・早起き・朝ごはん
 普段から早く寝かせようとは思っていましたが、なかなかうまくできずにいました。でも、保健師さんの話をお聞きして、バランスのよい食事を摂ること、早く寝ることは、よいことばかりだということがわかりました。特に早寝の効果として、成長ホルモンが、夜の九時～十二時の間に、他の時間の二倍も分泌されること。そして勉強したことが、頭の中で整理される大切な時間だというお話が印象に残っています。
 今日から気持ちを入れ替えて、親子で計画した日課を実践できるよう、家族みんなががんばろうと思います。

▼恵田小 保護者

心の健康

大切なもの
 いじめを受けていた、みっちゃん
 の味方になった近藤君の話を知り、
 すごく勇気があると思いました。
 いじめは、いじめている人やいじめ
 られている人に傷がただでなく、
 母親や父親、そして家族にも傷
 がつきます。今、とりにいる人や
 前や後ろにいる人を大切にしてい
 じめのないクラスにしたいです。

(細川小 六年生)



▲兄弟喧嘩からストレスがたまる場面を表現した寸劇 (東海中)



▲保健委員会の発表「心の中の鬼探し」(鳥川小)

禁煙・薬物乱用防止



▲歌で訴える受動喫煙の害とたばこ対策 (六ツ美西部小)



▲新型禁煙法～リセット禁煙の勧め～ (六ツ美中)

たばこと無縁(無縁)でいるために
 今日の話を知り、たばこを吸っても、よいことは何もないことがわかりました。そして、自分が後悔することになると思いました。最初の一本を吸わないことが大切だということもわかったので、自分の意志をしっかりともち、たばこは、無縁の人生にしたいです。

(六ツ美中 三年生)

お知らせ

● 教育最新情報

◆ 教科・領域基礎研修会

夏季休業中に各教科・領域ごとに基礎研修会が開催され、研修を深めた。その中で、模擬授業を取り入れた道徳の研修会と今日的な課題である裁判員制度を取り上げた社会科学の研修会の様子を紹介する。

○ 道徳

今年度初めて基礎研修会を開催することになった道徳部。会場は真新しい床の広々とした西部交流センターのホール。机がコの字型に並び、先生方を生徒に見立てた模擬授業が始まった。導入で授業者が簡単な手品を見せ、雰囲気緩和。資料名は、「手品師」。「手品師は、どんな思いで練習していたんだろう。」一人の先生の手が挙がった。「すごい。がんばってるね」



とすかさず入る褒め言葉。手品師が、大劇場へ行くか男の子との約束を守るか迷う場面では、手品師の気持ちを考え、真剣な話し合いが進められた。授業検討会では様々な視点から質問が出された。同時に、「授業のイメージがつかめた」「生徒の気持ちがあつた」と、率直な感想も聞かれた。その後の発問研究や役割演技の実習も、グループやペアとなつて進められ、和やかな雰囲気の中、研修を深めることができた。



○ 社会科

来年五月に施行される裁判員制度を体験する基礎研修会が、名古屋地方裁判所岡崎支部で行われた。

はじめに裁判員制度を取り上げた授業実践を、早川哲也先生(岩津中)が発表した後、映画「審理」を視聴し、判決が下される前で止めて、映画に出てくる事件の評議を実際に行うことで研修を深めた。

有罪か無罪か、有罪であればどれくらいの量刑が妥当かについて、九十五名の参加者が小グループに分かれて評議をする。評議では、さまざまな視点からの意見が出され、検察側、弁護側からの主張をどう判断するか、議論が白熱した。

その後、法廷に集合し、各グループの代表が裁判長席に座って判決宣告をした。検察側の求刑八年に対して、三年から五年六月までの判決宣告があった。裁判員制度を身近なものとして捉えるという意味で、今回の研修会は大きな成果があった。



● 中学生姉妹都市・友好・国際都市交流事業

今年も、中学生の国際交流事業として、各都市から使節団を受け入れている。

七月八日から九日間、ニュージーランドの使節団を迎えた。岡崎城などの施設を見学したり、市内八つの小学校で学校生活を体験し、交流を深めたりした。

また、七月三十一日から四日間、呼和浩特市から使節団を迎えた。岡崎の夏祭りを代表する花火大会を見学したり、学校訪問では、茶道体験をしたり、日本の伝統文化に親しむことができた。

いずれの子供たちも市内の中学生の家庭にホームステイをして、楽しく過ごすことが

できた。

さらに、八月十三日からは、クアランプール市に岡崎の使節団が訪問した。クアランプール市との交流活動は、旧額田町のころから数える、十八年目になるが、今年度をもって終了する。

八月二十二日からは、クアランプール市から使節団も迎えた。これまで中心となつて交流してきた額田中学校を訪れ、変わらぬ友情を確かめ合った。

九月には、ウッデバラ市使節団の来訪も予定されている。こうした活動を通して、岡崎市の子供たちが、ますます世界に目を向けていくことを期待している。



●表彰

- ◆トム・ソーヤスクール企画コンテスト
入選 千万町小学校
- ◆全国吟詠コンクール中部地区大会
幼年の部
優勝 男川小四年 竹本侑貴
- ◆愛知県小学校相撲選手権大会
四年生の部
優勝 井田小四年 中村恭輔
- ◆スーパードライティング愛知県空手道選手権大会 小学女子の部
三位 井田小六年 近藤郁佳
- ◆全日本バレーボール小学校大会
愛知県大会 男子の部
三位 矢作南小学校
- ◆NHK杯全国中学校放送コンテスト 愛知県大会
テレビ番組部門
最優秀賞 六ツ美北中学校
アナウンス部門
優秀賞 六北中三年 福岡寛子
- 朗読部門
入選 六北中三年 小林まゆみ
- ◆愛知県中学生ソフトテニス選手権大会
三位 河合中三年 杉田篤志
河合中三年 島田賢紀
- ◆愛知県中学校カヌー大会
男女総合優勝 新香山中学校
女子総合優勝 新香山中学校
男子総合二位 新香山中学校
- ◆愛知県レディス陸上競技大会
女子砲丸投げ
二位 六ツ美中三年 中根有那
三位 六ツ美中三年 山本真貴
- ◆通信陸上愛知県大会
女子砲丸投げ
五位 岩津中三年 向坂詩帆
- ◆愛知県教育文化奨励賞
知事賞 岩津中学校吹奏楽部



●平成20年度岡崎市小学校体育大会の記録

種目	性	優勝	第2位	第3位
ソフトボール	男子	南	梅田	竜崎
ソフトボール	女子	南	梅田	竜崎
バレーボール	男子	南	梅田	竜崎
バレーボール	女子	南	梅田	竜崎
バスケットボール	男子	南	梅田	竜崎
バスケットボール	女子	南	梅田	竜崎
サッカー	男子	南	梅田	竜崎
サッカー	女子	南	梅田	竜崎
水泳	男子	南	梅田	竜崎
水泳	女子	南	梅田	竜崎

●第61回岡崎市中学校市長杯総合体育大会・岡崎寺田支所予選会の記録

種目	性	優勝	第2位	第3位
陸上競技	男子	六ツ美北	竜崎	南
陸上競技	女子	六ツ美北	竜崎	南
バスケットボール	男子	北	竜崎	南
バスケットボール	女子	北	竜崎	南
バレーボール	男子	北	六ツ美	南
バレーボール	女子	北	六ツ美	南
ソフトテニス	男子	河合	矢作北	甲山
ソフトテニス	女子	河合	矢作北	甲山
卓球	男子	六ツ美北	幸田	南
卓球	女子	六ツ美北	幸田	南
身体接技	男子	北	東海	竜崎
身体接技	女子	北	東海	竜崎
剣道	男子	北	竜崎	幸田
剣道	女子	北	竜崎	幸田
ハンドボール	男子	美田	葵	南
ハンドボール	女子	美田	葵	南
軟式野球	男子	六ツ美	矢作北	南
ソフトボール	男子	六ツ美	幸田	北
ソフトボール	女子	六ツ美	幸田	北
柔道	男子	矢作北	竜崎	南
柔道	女子	矢作北	竜崎	南
サッカー	男子	福岡	南	北
水泳	男子	矢作北	矢作北	竜崎
水泳	女子	甲山	矢作北	竜崎
弓道	男子	幸田A	福岡A	福岡B
弓道	女子	幸田B	幸田A	幸田D

●第46回岡崎市小学校水泳大会

【南ブロック】三島小プール

種目	男子	女子
5年50m自	吉岡 大誠 上 地 34'9	中村 美 羽 根 辰 38'4
6年50m自	野本 拓 上 地 29'8	平岩 健 辰 32'5
6年100m自	石川 拓 上 地 1'17'9	村松 乃香 辰 1'11'8
6年100m平	伊藤 龍 上 地 1'27'6	小宮 実 辰 1'40'4
5年50m背	安藤 亮 上 地 43'5	高橋 方 辰 39'1
6年50m背	安藤 亮 上 地 40'6	高橋 方 辰 37'7
6年25mバタ	高瀬 大輔 上 地 16'4	藤井 瑞 辰 16'2
5年50m平	竹内 雅 上 地 47'2	大塚 美 辰 43'9
6年50m平	川合 雅 上 地 39'3	上 六 辰 45'0
200mメドレー	高瀬 大輔 上 地 2'33'0	吉岡 大誠 上 地 2'37'7
200mR	吉岡 大誠 上 地 2'18'1	高瀬 大輔 上 地 2'22'7

【北ブロック】井田小プール

種目	男子	女子
5年50m自	梅井 大 附 属 35'7	武山 さくら 附 属 32'6
6年50m自	下 藤 拓 梅 園 32'0	杉田 春 附 属 35'9
6年100m自	岩本 直也 矢作北 1'11'3	城所 景 矢作東 1'09'3
6年100m平	本多 直 附 属 1'35'6	戸田 優花 附 属 1'27'6
5年50m背	小高 真 附 属 40'1	野村 彩乃 附 属 40'9
6年50m背	藤江 修吾 矢作東 37'6	中嶋 早実 矢作東 34'4
6年25mバタ	今村 公亮 矢作西 17'7	山田 春 矢作西 16'8
5年50m平	神谷 洗 矢作西 41'9	金合 辰 矢作北 41'2
6年50m平	山内 陽馬 広 幡 38'9	中根 千明 矢作南 40'9
200mメドレー	新出 神谷 矢作西 2'38'3	中嶋 早実 矢作東 2'27'4
200mR	神谷 洗 矢作西 2'19'1	中嶋 早実 矢作東 2'12'7

●第61回岡崎市中学校市長杯総合体育大会・岡崎寺田支所予選会個人成績

種目	男子	氏名	校名	女子	氏名	校名
弓道	個人総合	石谷 達一	福岡	個人総合	西垣 萌子	幸田
ソフトテニス	個人総合	杉田 高田	河合	個人総合	加納 石原	甲山
卓球	個人総合	村松 侑	六ツ美北	個人総合	松元 愛佳	幸田北
剣道	個人総合	澤口 悠	矢作北	個人総合	津谷 綾華	矢作北

●第61回岡崎市中学校市長杯総合体育大会総合成績

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男子総合	矢作北	矢作南	六ツ美北	竜崎	甲山	竜南
女子総合	矢作北	矢作南	六ツ美北	竜崎	甲山	竜南
男女総合	矢作北	矢作南	六ツ美北	竜崎	甲山	竜南

健康増進活動 (昭和54年)

写真提供：六ツ美中部小学校

写真は、昭和五十四年の本校での乾布摩擦活動の様子を撮影したものである。健康増進と風邪予防の目的で始められたもので、秋から冬にかけて行われた。業間の十五分間に、一年生から四年生までと五・六年生男子が中庭、五・六年生女子が体育館に行き、一斉に音楽に合わせてタオルなどで体をこすった。乾布摩擦活動によって、徐々に健康づくりの効果が現れていき、風邪による欠席者の減少などの成果をみる事ができた。

当時は、はだし活動、かけ足活動、業間体育などに取り組む学校が数多くあり、岡崎市全体で健康増進・健康教育への関心が高まっていた時代であった。

フォトヒストリー

岡崎の教育



赤銅色にたくましく日焼けした子供たちが学校に帰ってきた。きつと夏休みには、北京五輪の選手たちの活躍に胸を躍らせたことだろう。まもなく「実りの秋」を迎える。夏休み中の体験が、大きな実りにつながる。教師も子供たちも、大きな実りへの確実な一歩を共に踏み出そう。

オ ア シ ス

スプレー缶、エアコン、冷蔵庫をはじめ多くのものに、未だフロンガスが使われ続けている。九月は、オゾン層保護対策推進月間である。地球規模で考えなければならぬ環境問題はいくつもあふ。子供たちと未来を見据えて、身近なところから地球に優しい取組をしていきたいものである。

「おはよう」と、笑顔で必ず声をかける。忙しさを理由にして、今までできなかったことの実践を心がけた。すると、子供の表情が変わり、学校のこともよく話すようになったという。学校保健委員会が、親子で生活を見直すよい機会となっていることを実感した。

「暑い、暑い」と、滝のような汗をぬぐいながら、子供たちが教室に戻ってくる。クラス全員でドッジボールをしたとのこと。その輪の中心にいる子も、夏休みの日記には、一人でゲームをしたという文がつけられていた。大勢で遊ぶ。学校は今、そんな経験ができる数少ない場かもしれない。

この本を

* 「傷つきやすい自分」を大切に

	鴨下 一郎	¥1,365
新講社	城山 三郎	¥580
* 秀吉と武吉	曾野 綾子	¥1,470
新潮文庫	毛涯 章平	¥1,682
* 生きるための闘い		
小学館		
* 肩車にのって		
第一法規		

* 青い鳥 重松 清
新潮社 ¥1,680

今学校には、様々な理由で心に傷を負った子がいる。友達関係や親子関係など、寂しさに耐えて生きている子も多い。

本書には、吃音の臨時国語講師、村内先生と赴任先での生徒とのドラマが八つの短編で描かれている。吃音という障害に対して小馬鹿にしてきた生徒たちは、次第に村内先生の存在の重さに気づく。答えは一つ。それは彼にしかできないアプローチの仕方、すなわち「そばにいてやること」だった。

広幡小 海藤 茂実